

『ソモト・エモーショナル・リコール&リリース』

関連資料（１）

引用・出典

◆頭蓋仙骨治療

ジョン・E．アプレジャー（著） ２５１～２５５頁

身体情緒的想起と解放

我々が観察し治療用としてとても有効に使ってきたもう1つの現象を、我々は身体情緒的想起と解放と呼んでいる。我々の経験から、体の組織（特に結合組織）は記憶を有している様である。損傷させる様な力がかかった時、力を受ける組織は変化させられる。おそらくそれは衝撃のエネルギーを持ち続けているのであろう。増加された運動活動又は高いエントロピーのレベルが損傷を受けた部位にて生じる。人体はエネルギーを放散して正常に戻るか、病気が治まっている時に結核菌を囲じこめる様に衝撃のエネルギーを見つけて閉じこめる。損傷のエネルギーがうまく隔離された後、体はこの部位に適応する。エネルギー（電気、磁気、プラナ、気、あなた自身の個人的好み）は、そこを通るというよりもその部分を中心に動く様に強制される。

一部のケースでは、適応のコストがとても小さいので臨床上の症状を全く生じない。その他のケースでは、適応又はエネルギー迂回のコストがとても大きいので臨床上の問題が生じる。原因となる損傷とその結果生じる臨床上の症状の関係は、多くの場合とても不可解で、我々にとって現在の人体の知識では理論的に発見することは不可能である。しかし、チャンスを与えられれば、患者の体は今ある主訴の基となる当初の損傷にあなたを導いてくれる。当初の損傷が発見されれば、体性損傷の抑圧された情緒的成分は同時に解放されることが多い。例えば、その損傷がパニックやヒステリーを伴うスキー事故中に生じたのかもしれない。当初の損傷をあなたが発見した時、患者は通常教えてくれるであろう。それらは事故に伴うパニックやヒステリーをも解放するかもしれない。このことが行われたなら、損傷はもはや適応エネルギーを必要とせず、関連する臨床症状は永久に消失する。

身体情緒的想起と解放のテクニックはとても簡単に始まり、患者はとても早く回復する。解放が生じるまで、あなたはそのままいなければならない。これに5分かかるかもしれないし、1時間かかるかもしれない。あなたのスケジュールが一杯で、その患者がこのテクニックで治ると信じるなら、十分な時間がとれる様に予約の調整をなさい。

患者を坐位にして、頭頂部に一方の手を、上部胸椎の後にもう一方の手をあてて通常始める。（図14-6）

わずかな下方への圧縮力を頭頂部にかけると、頸椎と上部胸椎は優しく尾方へ圧縮される。頭頂部への圧の効果を上部胸椎部にあてたもう一方の手で感じた時、その圧を維持し、患者の体が動きたいと思う事は何でも行わせなさい。あなたが体にかける唯一の制限は、その行跡を戻らない様に妨げることである。つまり、それが特定の運動を行ったならば、それが来た道に戻ることを除いてそれが動きたいと思う方向へ動くままにさせる。戻ろうとしたなら、優しい抵抗を加えなさい。体は屈曲、伸展、側屈、回転、又はその組み合わせられた姿位をとろうとする。患者はこの操作の間弛緩していることがとても重要である。そうでないなら、筋肉の意識的な動き又は抵抗が妨害するので、体の生来の方向を追跡することはとても難しくなる。この弛緩状態にさせるためには、患者の精神状態を安定させるのみでなく、倒れるという恐れを生じさせない様に体をしっかりと支えなければならない。時として、患者の体を適切に支えるために2人以上の治療者が必要になることがある。解放は多様であり、頭頂骨においてモニターしうる。損傷が生じた位置に到達したなら、頭頂骨の運動は減少する。体が損傷パターンを緩めると、頭頂骨は自由で容易に動くパタ

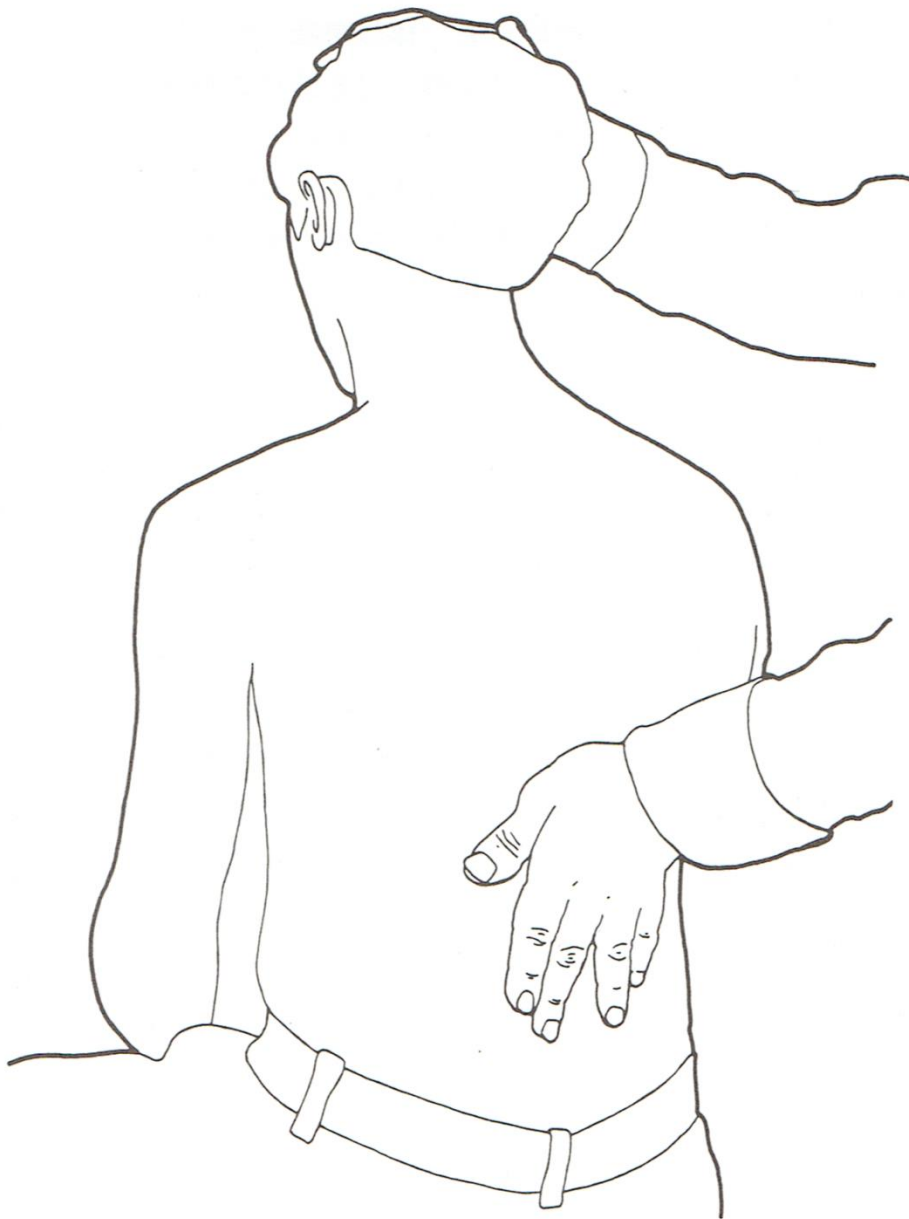


図 14 - 6

坐位による身体情緒的想起と解放の開始

ーンになる。情緒成分が体性問題を伴うなら、頭頂骨の解放を感じる前にそれは現れる。患者の体があなただけをどこに導くかを追跡しなさい。

解放が生じた時、新しいバランス点が現れる。各々の解放は次の解放を促進する様に思われる。事態は加速度的に動くのだ。注意しなさい。患者の体の運動に抵抗を加えて抑制してはならない。このルールの唯一の例外は、患者の体が通常円形の運動パターンを継続的に繰り返す型にはまった時である。この繰り返しは果てしなく長い間続くかもしれない。治療者がその動きにとっても軽い不特定の抵抗をかけることにより、その動きは新しい方向に向う出口を示してくれる。この点から、外からの抵抗を加えることなくその動きを追跡

する。これは動的なプロセスであり、運動の結果と変化は予測がつかない。予測できることは、患者が受けるであろう恩恵である。治療が終わった時、患者はとても弛緩している。あなたが治療を再開しようとしても、自律的な体の運動は起こらない。この治療中に腕が宙に上がったなら、優しくそれをつかんで追跡しなさい。重大な制限が以下に示す最初の例の様に四肢にみつかるとはかもしれない。

我々がよく使うもう一つの方法は、患者自身の体の運動が始まるまで、立っている患者の腸骨前部に優しく触れて内方へ少し圧縮する方法である。追跡し、次々に解放を得なさい。(図14-7) このプロセスは患者を仰臥位にしても始めることができる。このケースに



図 14 - 7

立位による身体情的想起と解放の開始

において、解放プロセスを始めさせるために、足首を握ってわずかに牽引又は圧縮力を加える。これらのテクニックのいずれかの過程で生じる各解放は、中心に何があるかを見つけるためにタマネギの皮をむくの に似ている。

最終的に、患者は損傷が起きた時の姿勢を取ることを覚えておきなさい。頭蓋仙骨系が停止することによって、その姿勢が正しいことを知るであろう。しばしば患者は、「この姿勢はまさに事故が起きた時に取っていたものだ」と自分から言うであろう。あなたが行うべきことは、完全な解放が生じるまでその姿勢に止めて待っていることである。解放は完了するのに時間を必要とするプロセスである。患者の体の弛緩、呼吸変化、感情の吐露の停止、解放プロセスの完了についての患者の自覚、スムーズでより均一な振幅の大きな頭蓋仙骨系のリズムカルな動きなどが完了の合図をしてくれる。

我々は難しい問題をこの様にして解決したのを少なくとも100例あげることができる。今ある愁訴は問題の源とはまったく関係ない様に思われるかもしれないが、患者はその説明を受けると大抵その関係を説明することができる。

我々が議論している概念と感覚の両方を説明するために、どうしても1～2の症例を引用したい。42才の婦人をこの方法で約一時間、診断し治療した。彼女の主訴は12年間続いた頭痛と首の痛みであった。彼女は約15年前に根治的な乳房切除術を受けていた。彼女が相談した医師の多くが言っていた様に、彼女は頭痛や首の痛みが乳房切除術のせいであると考えていた。彼女は神経科医、オステオパシー医師、物理療法師、精神科医、最近ではRolfingの治療を受けていた。あらゆる治療法で一時的には楽になるが、数日又は数週間しかその効果が続かなかった。彼女は上記の身体情緒的想起と解放方法による治療を受けた。約20分後、彼女は床に横たわっていた。私（アプレジャー）は彼女の左手首を持っているだけで、彼女は網にかかった魚の様に床の上をころがり叫んでいた。その網は彼女の左腕であった。彼女は私が彼女の左手首を握っているのを解こうとはしなかった。何も知らない人が見たら、この婦人は逃げることにしか望んでいないときと思ったであろう。治療が進むにつれて、彼女は小さな小児が痙攣を起こしている様に騒ぎ始めた。最終的に全てが収まり、完全に弛緩した状態になった。頭蓋仙骨系のリズムはスムーズで落ち着いたものになった。彼女が話してくれたところによると、彼女の想起は彼女が2才半の時の事故であり、彼女の母親が彼女を床から起こそうと左手首をもってかなり強く引いたことにより捻挫したものであった。彼女の母親が彼女の嫌いなドレスを作ったので、彼女はハサミを見つけてズタズタに切り裂いてしまったのである。彼女を見つけた時、彼女の母親は彼女の手首をぐいと引っ張り、叫ぶ様にして彼女を叱った。（偶然であると思うが、悪性腫瘍により除去されたのは左乳房であった。）彼女はこの治療後2年間、比較的症状が出ていない。

もう一例は、心電図とストレステストでは正常であるが、胸部痛が続いていた45才の男性である。複合的で再発性の上部胸椎と肋骨の体性機能障害が存在していた。彼は何年もいろいろなオステオパシー的なマニピュレーション治療を受けていた。彼はこれらのアプローチで治まっていたが治癒してはいなかった。この上部胸椎と肋骨の問題は、約10年前に18フィートの足場から落ちた時に受けた損傷から生じていると考えられていた。彼が地面に落ちた時、足場に使われていた何枚かの板が彼の頭に当たった。

身体情緒的想起と解放の治療過程において、16才の時に起きたフットボール損傷が蘇ってきた。彼は損傷後約45分間無意識だった。この治療過程まで、彼はその損傷が発生した前後の事を忘れていた。彼は意識を失ったのが頭部への打撃によるものと考えていた。この治療過程において、彼は頭、首、上部胸椎を極端に後屈させた。実際に彼は前頭部に打撃を感じた。この姿位を維持していると、彼の体は弛緩し始め、頭蓋仙骨系はより自由になって彼の痛みは消失した。最初の治療以来1年、彼はほとんど胸の痛みを感じていない。胸椎の体性機能障害は治療によって良好かつ持続的に良くなっていった。彼はより深く自由に呼吸することができる様になった。彼はとてもリラックスして気楽になったと言っている。

これらの例が示す様に、身体情緒的想起と解放のテクニックを使う時、予想外のことが起きるので準備する必要がある。パニックを起こすことなく、この過程が終ったと患者が合図してくるまで続けなさい。最も信頼できる合図は体が完全に弛緩することである。これが得られた時、体がその日に放棄しようとしていたすべての制限をなくしてしまっていることに気がつくだろう。受信した所から再チェックしなさい。著しい変化に気がつくであろう。

体全体の反応により診断し、身体情緒的想起と解放により治療することは、頭蓋仙骨治療の欠くことのできない構成要素である。多くの患者は彼らを診た全ての治療者を困惑させる問題を持っている。これらの方法はしばしばこれらの謎を解き、あなたが患者をより効果的に助けることを可能にしてくれるであろう。